

volume  
**119**  
March  
2012

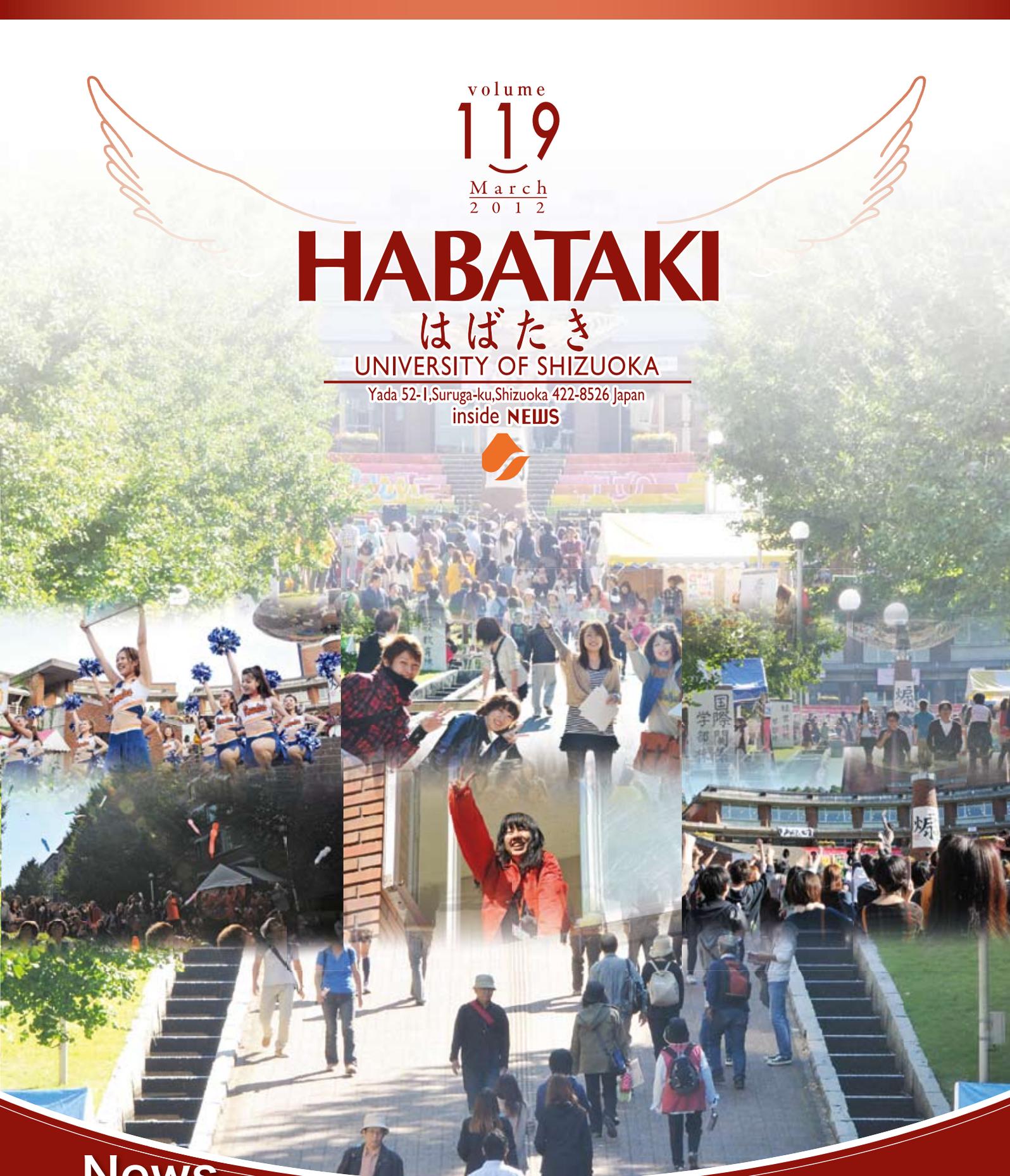
# HABATAKI

はばたき

UNIVERSITY OF SHIZUOKA

Yada 52-1, Suruga-ku, Shizuoka 422-8526 Japan

inside NEWS



## News

— 剣祭・橘花祭開催！

## TOPIC

— 創立25周年記念事業  
ホームカミングデー、特別記念講演会ほか

## US Report

— 学生・教員の活動報告—  
— 学長杯争奪学内駅伝大会の開催ほか

**連載** 活躍する卒業生  
図書館だより

## 01 第25回 剣祭を開催!

10月29・30日の2日間にわたり、大学祭「第25回剣祭 Let's Smile! ～2525(ニコニコ) anniversary～」を草薙の谷田キャンパスで開催しました。毎年人気のお化け屋敷やフリーマーケットの他、サークルによるライブイベント、模擬店など学生による趣向を凝らした様々な催しが揃い、一般の方も多く来場され、学生と地域との交流促進ともなりました。創立25周年を記念した今年度は、国際シンポジウムを同日開催するなど、例年以上に充実した2日間となりました。

**実行委員長の言葉** 第25回剣祭実行委員長 長池祐太

10月29日(土)、30日(日)「Let's Smile ～2525 anniversary～」をテーマに第25回剣祭が開催されました。今年は記念すべき25回目の剣祭ということ

で、実行委員会はもちろん、各クラブ・サークルの模擬店や活動発表も盛んに行われ、大盛況のうちに幕を閉じることができました。

剣祭実行委員会が企画しましたステージ企画では「県大生クイズ!」「Ms.&Mr.コンテスト」「後夜祭～Twinkle Castle～」が行われ、会場が満員になるほどのお客さまにお越しいただきました。毎年好評のお化け屋敷では1時間待ちの大行列もでき、子どもから大人の方までたくさんの皆様にお楽しみいただけたのではないかと思います。その他、オープニングセレモニー、休憩所、フリーマーケットや模擬授業も多くの皆様に参加していただくことができました。

このように多くの皆様楽しんでいただいた第25回剣祭が開催できたのもたくさんの方々のご協力のおかげです。剣祭に参加してくれたクラブ・サークルの皆様、温かい目で学生を見守ってくださった大学関係者の皆様、広告・協賛など剣祭開催にあたりご協力いただいた皆様、そして剣祭にご来場くださったすべての皆様、本当にありがとうございます。

第26回剣祭でも皆様のご来場をお待ちしております!



## 02 短期大学部大学祭 橘花祭開催!

短期大学部において、10月29日(土)、30日(日)の2日間、第15回橘花祭「<sup>たちばな</sup>百花繚乱」を開催しました。昨年の台風を教訓にし、イベントを成功させようと、実行委員長を中心に、授業や実習で忙しい合間を縫っての準備となりました。

当日は天候に恵まれ、予想を上回る多くの方に来校していただきました。模擬店や各学科の展示・イベントだけでなく、盲導犬ボランティア団体の参加や東日本大震災への募金活動など、短大の特徴をふんだんに盛り込んだ大学祭となりました。



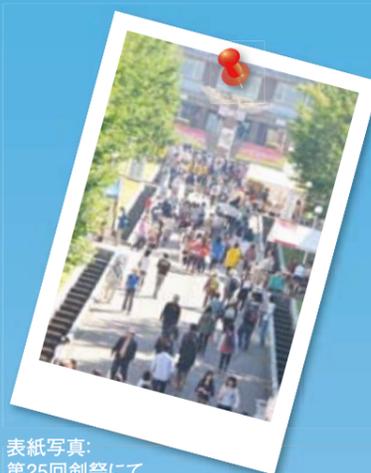
**実行委員長の言葉** 第15回橘花祭実行委員長 斉藤明日香

今年度の橘花祭では、実行委員長を務めさせていただきましたが、不十分な点が多くあり、皆さんに迷惑をかけることがたくさんありました。しかし、橘花祭を成功させたことにより、多くの仲間が出来、達成感と感動で胸がいっぱいです。これからも、挑戦する気持ちを忘れず物事に取り組んでいきたいです。

今回ご協力してくださった皆さん、本当にありがとうございます。

### INDEX

- 01 News
- 03 TOPIC 創立25周年特集
- 11 受賞一覧
- 13 US Report
- 27 図書館だより
- 29 海外留学体験記
- 30 活躍する卒業生



表紙写真:  
第25回剣祭にて



# Topic 創立25周年特集

## ▶▶ 創立25周年記念シンポジウム 「変容する世界における黒海地域～新しい世界、変わらぬ問題～」開催

### 創立25周年記念事業として 海外との国際交流協定を締結

本学の創立25周年記念事業として、去る10月29日、本学とブリュッセル自由大学(ベルギー)、カリフォルニア大学デービス校(アメリカ)との間で、学生、教員の交流、学術協力等を目的とした大学間国際交流協定が締結され、コンケン大学(タイ)との大学間国際交流協定の更新と併せて、その調印式が本学においてとり行なわれました。さらに、12月8日にはマヒドン大学(タイ)との間でも大学間国際交流協定が締結され、同じく本学において調印式がとり行なわれました。なお、それぞれの調印式の前日にはグローバルCOEプログラム主催の「国際拠点形成シンポジウム」を開催し、来学された代表者による各校の紹介や最新の研究発表が行われ、交流の第一歩を刻みました。

今回、協定を締結及び更新をした各大学は、それぞれの国を代表する名門大学であり、研究者、学生との交流を通じ、本学の研究水準の向上やグローバルな視野をもった優れた人材の育成が期待されます。



10月29日(土)と30日(日)の2日間にわたり、シンポジウム「変容する世界における黒海地域～新しい世界、変わらぬ問題～」を開催しました。本シンポジウムは、日本黒海学会と本学の共催により、日本学術振興会の補助を受けているプロジェクト「黒海地域の国際関係—4次元分析における学際的総合研究」が主催したもので、創立25周年を記念し、本学で開催の運びとなりました。

当日は、学内外合わせて延べ約150名の方が来場し、NHK国際部の記者やラジオプレスなどの報道陣も集まり、本シンポジウムに対する関心の高さがうかがえました。本シンポジウムには、海外からは黒海経済協力機構(BSEC)の書記長をはじめ、黒海地域を中心に8ヶ国から14名の有識者が、国内からは本学国際関係学部の教員3名を含む12名の研究者が集まり、重要度を増すこの地域の国際関係について、活発な議論を展開しました。

木苗直秀学長の開会挨拶のあと、シンポジウムのオープニングセッションとして、本学の国際関係学研究科六鹿茂夫教授(広域ヨーロッパ研究センター長)が、黒海地域の地政学的・戦略的重要性の高まりと、日本外交の裾野を黒海地域を含む広域ヨーロッパまで広げていく必要性について基調報告しました。

続いて4部からなる各セッションでは、内外の有識者が、黒海地域の経済発展や国際関係などについて意見を交わしました。労働移動の観点や、国境を越えた企業の活動の観点から見た黒海地域経済、黒海地域の様々な国際機構の活動、周辺各国の視点から見た黒海地域の展望について報告と討論がなされ、フロアからの質疑応答も含めて大変活発な議論が交わされました。

EU/NATOとロシアの「狭間の地政学」に位置する黒海地域は、エネルギーや「新しい戦争」などの安全保障問題を抱え、戦略的に重要な位置にありますが、本シンポジウムは、日本では普段接する機会の少ないこの地域の様々な情勢について触れる貴重な機会になりました。また、海外から招いた有識者には、日本における黒海地域の研究の層の厚さを印象付けるものとなり、今日内向きになっている日本に、外交を支える知的インフラが十分整備されていることを世界に向けて発信できたことは大きな収穫でした。

(国際関係学部 教授 六鹿茂夫/講師 小窪千早)

シンポジウムのプログラムおよび報告内容については、広域ヨーロッパ研究センター(WERC)ホームページよりご覧いただけます。  
(英語サイト) [http://werc.u-shizuoka-ken.ac.jp/english\\_53vcOOcM.html](http://werc.u-shizuoka-ken.ac.jp/english_53vcOOcM.html)



右から クリサントボロスBSEC書記長  
一人置いて チェチュラシヴィリGUAM書記長



当日の会場の様子

### (1) フリュッセル自由大学

ブリュッセル自由大学は、1834年創立、法律学部、社会科学部及び政治学部、心理学部・教育学部、科学部、医学部、応用科学・工学部、建築学部、大学院、公衆衛生スクール、自動車科学研究所、薬学研究所、欧州問題研究所などの研究機関などをもつ学生数約30,000人の私立総合大学です。

1999年のブリュッセル自由大学教員による本学国際関係学部特別講演を契機に双方の研究者等の交流を重ね、2010年9月に木苗学長が同校を訪問し、本学との間で協定を締結することで最終合意をして、その後、協定締結に向けて作業を進めてきたものです。



ブリュッセル自由大学・  
Dr. Jean-Michel Kauffmann(左)と  
木苗学長

### (2) カリフォルニア大学デービス校

カリフォルニア大学デービス校は、1905年創立、カリフォルニア大学(University of California)の10のキャンパスの1つであり、農業・環境学部、生物学部、工学部、文理学部、教育学大学院、法科大学院、経営管理大学院、医学大学院、獣医学大学院等がある学生数約30,000人の共学の4年制総合大学です。高度な研究機関として多くの研究室とキャンパス内外に研修施設を持ち、その研究成果により世界的な評価を得ている大学です。

2007年に小林生活健康科学研究科長(当時)他が同校を訪問し、相互の連携について協議しました。また2010年11月には、木苗学長も同校を訪問、レイシー副学長等と会談し、これまでの実績を踏まえ、大学間連携協定締結を行なうことを確認し、その後、協定締結に向けて作業を進めてきたものです。



カリフォルニア大学デービス校・  
Dr. Adrienne Martin(左)と木苗学長

### (3) マヒドン大学

マヒドン大学は、1943年創立、薬学部、理学部、熱帯医学部、環境資源学部、獣医学部等の17学部、6カレッジ、7研究機関及び大学院等で構成されている、学生数約27,000人の総合大学です。

薬学部、大学院薬学研究所、生活健康科学研究科との学部間協定を進めてきた実績を踏まえて、大学間連携協定締結を行うことを確認し、その後、協定締結に向けて作業を進めてきたものです。



マヒドン大学・  
Dr. Skorn Mongkolsuk(左)と木苗学長

### (4) コンケン大学

コンケン大学は、1964年創立、コンケン市に設立された総合大学で、地方大学としては3大中心大学の一つとなります。本学とは2006年11月に大学間協定を締結していますが、今回はその協定の更新となります。



コンケン大学・Dr. Kittichai  
Triratanasirichai学長(左)と木苗学長

## ホームカミングデイの開催

### 薬学部

薬学部ホームカミングデイが10月29日(土)、薬学部棟3階6329講義室において創立25周年記念事業の一環として開催されました。静薬学友会 若尾直司会長、元職員をはじめ50名以上の方が来場されました。ご家族で参加された方もおられました。元職員、卒業生による近況報告を行いました。軽食を片手に、卒業生は懐かしい母校の近況に触れ、恩師や同窓生同士は情報交換を行い、親睦と交流を深めていただくことができました。



### 食品栄養科学部

11月19日(土)に食品栄養科学部及び大学院生活健康科学研究科食品栄養科学専攻の同窓会である「創星会」の特別シンポジウムが行われました。悪天候にも拘らず、元また現教職員、卒業生、修了生及び在校生を含め、約200名が参加しました。本学の二代目の学長である星猛先生や木苗直秀現学長をはじめ、歴代の学部長の先生方が全員が参加され、シンポジウムでは一期生からの卒業生8名が現在の職務内容やこれまでの歩みを中心に講演されました。シンポジウム終了後には学生ホールで懇親会を行い、旧交を温めました。

本学部及び専攻は特に教員と学生の間に強い繋がりがあり、今後もこの創星会を通して在学時に築いた交友関係をさらに深め、それを継続しつつ、在校生である後輩に対して就職等のさまざまな支援を行いながら、益々この創星会を発展させたいと考えております。

### 国際関係学部

国際関係学部・研究科同窓会のホームカミングカフェは10月29日(土)、剣祭1日目に3317教室で開かれました。このカフェの特徴は、同窓生「以外」も気軽に立ち寄れるところです。今年は、スタッフがコーヒー豆をその場でひいて、ひきたてのコーヒーを来場者に振舞うサービスを行いました。卒業生は10人程度、そのほかは先生方、在校生、地域の方々が会場を訪れました。国際関係学部・研究科同窓会は主に在校生が運営している団体なので、手作り感あふれるカフェスペースでありましたが、子どもからお年寄りまで、皆が楽しめる良い時間を過ごすことができました。

## ホームカミングデイの開催



### 看護学部

10月29日(土)剣祭に谷田キャンパスにて25周年事業看護学部ホームカミング・デイが開催され、卒業1期生から12期生、教員、卒業生の友人を含め16名が参加しました。看護師、保健師として病院や地域で活躍している卒業生から、職場の様子、今取り組んでいる仕事の内容などの情報交換が行われました。

また、卒業生から大学に求めることや同窓会の更なる発展について話あう有意義な時間となりました。久しぶりの教員との再会、また、卒業生同士、初対面の顔合わせにも拘らず年代を超えて大変盛り上がりました。これを機会に剣祭にあわせてホームカミング・デイを継続的に開催していきたいと思っています。



### 経営情報学部

経営情報学部・研究科の同窓会「経情会」は、昨年度と今年度のホームカミングデイで、遠方からも参加できるようWeb同窓会を試し、その様子を経情会ホームページでネット配信しました。今年度のホームカミングデイは剣祭開催時の10月29日に、はばたき棟3階で行いました。参加者は、卒業生、在校生合わせて約20名でした。

また、今年度から、卒業生、在校生のコミュニティページとして経情会 facebookページを公開しました。経情会ホームページは同窓会の公式の内容を掲載する場とし、facebookは卒業生、在校生の自由な意見交換の場としています。今後は、ホームカミングデイやfacebook、経情会ホームページなどにより、卒業後のネットワーク作りのサポートをしていきたいと考えています。

### 創立25周年記念特別講義 「米国薬剤師の新たな薬剤業務の機会と挑戦」

10月19日(水)に、アリゾナ大学薬学部Michael D Katz先生(Pharm D, Department of Pharmacy Practice and Science)による特別講義を開催しました。本学とアリゾナ大学とは2002年に国際交流協定を締結して以来、教員の交流や学生の訪問などを進めてきました。Katz先生の本学での講演も3回目となり、今回は「Pharmacy Practice Research: Opportunities and Challenges」と題して、米国での薬剤師が新たな薬剤業務範囲の拡大のために機会と挑戦を模索していることが紹介されました。



ケイツ氏の講演を熱心に聴き入る学生と教員

講義では、臨床薬学教育の先進国である米国の薬学教育、薬剤師教育と薬剤業務の変遷について触れ、日本の薬学部教育も米国と同様の道を歩んでいることを、具体的事例を挙げて説明されました。また、国民の健康増進や医療費削減に貢献するために、薬剤師のリスクマネージャーとしての役割の重要性が強調されました。

講演後の質疑応答では、米国での慢性疾患患者の服薬遵守率が約50%と極めて低い実態について、薬剤師の患者への教育的指導により改善されたことを挙げ、日本においても今後重要な課題となるであろうとの見解が述べられました。英語での講演でしたがとても分かりやすく、学生にとっては、内容だけでなく薬学や薬物治療の専門英語を理解するのに役立つ貴重な機会となりました。

(薬学部教授 山田静雄)

### 薬学部特別講義 瀬名秀明氏講演会 「サイエンスから夢の創成」

薬学部では、県立大学創立25周年記念事業の一環として、瀬名秀明氏(作家・薬学博士・日本SF作家クラブ会長)による記念講演会「サイエンスから夢の創成」を、11月21日(月)に本学大講堂にて開催しました。

講演会には、薬学部の1年生から4年生を中心に、木苗学長を含む教職員合わせて500名を超える参加がありました。この講演では、先生のこれまでの著作や取材活動、あるいは東日本大震災でのボランティア活動を通じて得た体験・経験、さらにサイエンスに対する想いについて、ユーモアを交えながら講演いただきました。さらに、講演会終了後には、薬学部の学生や大学院生に加えて、先生の熱心なファン(何と他県から参加してくれました!)も交えた懇親会を学生ホールにて開催致しました。学生時代の頃から最近までの研究や作家としての活動について、講演では聴くことの出来なかった様々なエピソードをお聞きすることが

できました。

薬学を専門として学ぶ傍ら、学生時代から執筆活動を行い、SF作家という道を選んだ先生のお話は大変幅広く、興味深いものでした。今後の進路を考える学生にはもちろんのこと、教職員も大いに刺激を受けるものだったと思います。この場を借りてお礼しますとともに、瀬名先生の益々のご活躍を祈念致します。

(講演会世話人: 出川雅邦 薬学部衛生分子毒性学研究室・教授)



瀬名先生(前列テーブル中央、学生ホール1階での交流会にて)

### 静岡県立大学創立25周年記念講演会 「脳を鍛える」

10月8日(土)に、脳科学者の川島隆太先生(東北大学加齢医学研究所教授)を迎えて講演会を開催しました。先生は、「加齢医学」に関する脳機能の基礎研究成果を基に、ヒトの成長や加齢の変化に対応して個人や社会が知的に成熟することをコンセプトとして、「脳トレ」や「スマートエイジング」という、新たな「心身健康法」を提唱されています。

講演では、日本の現在抱えている、①個人の長寿化、②人口の高齢化、③地域の過疎化などの課題を解決するために、加齢は、成長・発達することで、より賢く、何かを獲得していくプロセスであることを唱えられ、知的な成熟、豊かな「知縁」社会の創生(お互いに支え合う)が重要となることを強調されました。さらに重要なこととして、認知刺激、運動、栄養、そして社会性を挙げられました。

栄養とスマートエイジングでは、米食の朝ごはんが脳活動の活性化に効果的であることを大学生での試験データにより示され、人間にしか存在しない前頭前野(おでこの後)の機能(思考創造、コミュニケーション、記憶学習、意欲・集中力、自発性、自律性など)が加齢とともに低下するが、この脳部位の機能を鍛えることがスマートエイジングに重要であることを強調し、具体的な学習方法を説明されました。特に、短期記憶の一つである作動記憶(Working memory)のトレーニング(読み書き計算、音読など)により、大脳皮質の細胞層が厚くなり、その体積が大きくなり可塑性を生み出すことが可能であり、こうした学習による機能改善は、アルツハイマー患者において、医薬品のアリセプトに匹敵するか、それ以上であることを実証された。最後に、調理が前頭前野の機能回復に極めて有効であることを示されました。約700名の参加者が先生の講演に魅了され、「脳を鍛える」ことができた、素晴らしい講演会でした。

(薬学部教授 山田静雄)



講演する川島隆太先生



多くの参加者で埋め尽くされた会場、大講堂にて

## “文理を超えた交流と総合的研究の発展を目指す” 異分野融合フォーラム

若手の教員や学生の学部間交流を促進し、総合的な研究へと発展させることを目的に発足された組織「異分野融合フォーラム」。創立25周年記念事業をきっかけに始まった企画は、今年の2月で一周年を迎えました。



ランチ会はとても和やかな雰囲気。談笑を交えながらの会食のかたちだからこそ生まれる意見やアイデアも

### 教員が学部を超えて集い、相互の理解と交流を深める

各学部から助教・講師といった若い教員が中心となり、週に一度の会食形式のミーティングで意見を交わす通称「ランチ会」は、これまでに40回以上開かれ、回を重ねるごとに参加者も増えています。ランチ会はフォーラムそのものの計画を話し合う他、お互いの研究についての相談や情報交換、事業を行う上での取り組み方や研究費を獲得するためのコツなど、議題は多岐に渡ります。中でも最近の話題の中心となっているのが、公開型のランチ会（通称：拡大ランチ会）について。「フォーラムの発足当初は、25周年記念事業としてどのような企画を行うのか具体的な内容が全く定まっていなかった。そんな中でも、学長先生や学生たち、他の教員からの意見を聞きながらランチ会を重ねることで、各学部の持ち回りで公開セミナーを開くかたちが徐々に見えてきました。」と薬学部 井川貴詞助教は話します。

### 異分野交流を多くの学生、一般市民へ提供する「拡大ランチ会」の開催

総合大学の強みを活かした異分野連携がこのフォーラムの魅力。5学部、1研究所がそれぞれの特色を打ち出したセミナーを企画し、学生だけでなく一般の方も参加可能な公開セミナーが6回に渡り開催されました。



経営情報学部主催の拡大ランチ会の様子。講師はコミュニティデザイナー山崎亮氏。会場は超満員！学内はもちろん、来場者は一般の方や他大学の関係者にまで及びました。

本学は専門性の高い多様な学部が揃っているため、著名な講師を招いたセミナーや、人気映画の文化的背景を学ぶ上映会、誰もが楽しめる科学実験の実演、被災現場での救急対処法(トリアージ)など、拡大ランチ会は開催ごとに全く違う面白いテーマ設定となりました。学生や教職員だけでなく一般市民の方からのご参加も多く、異分野融合フォーラムのアクティビティを学内外に発信することに成功しています。

経営情報学部の国保祥子助教が「当日の資料作成や参加者への取材、広報など、他学部の先生や学生が積極的に手伝いの声を上げてくれることに感激しました」と語るとおり、他学部の教員同士が互いに協力し合える関係が、異分野融合フォーラムを長続きさせている要因でしょう。彼らは異分野融合フォーラムの大学内外での認知度をさらに高めることで、フォーラムに関わる人を増やす努力をしています。

### 学生も学部を超えた交流を

教員だけでなく学生もまた、フォーラムに携わっています。学内向けキャリア情報誌「&YOU」の制作メンバーの一人である国際関係学部4年の小松央美さんは、異分野融合フォーラムを長期に渡って取材し、フォーラム公式ブログのレポートも手伝っています。「フォーラムに参加されている先生にお誘いいただいたのがきっかけです。はじめは学生のキャリアについて先生方がどのように考えているのを知りたくて取材をしていましたが、今はこのランチ会に参加すること自体がとても楽しいです。他学部の学生とも知り合うことができましたし、もっと多くの学生に参加してほしいと思います。」

### 異分野交流の価値とこれからの発展

一年間の取り組みにより、教員同士の研究に関わる情報交換や協力者の引き合わせなどのコーディネートも実際に生まれ、発足当時の目的である「総合的研究」への可能性も開けた異分野融合フォーラム。来年度もラン

チ会を継続させていきたいとの声が集まり、今後に向けた話し合いがすでに始まっています。異分野融合フォーラムの益々の活躍と今後の発展が期待されます。



### 異分野融合フォーラムからのお知らせ

拡大ランチ会をはじめ、今年度の取り組みをまとめた刊行物を発行予定です。詳細は異分野融合フォーラムの公式ブログにて告知します。ブログではこれまでのランチ会の様子や今後の活動予定についても見るができます。ご興味のある方は、いつでも気軽にランチ会へご参加ください。ご予約は必要ありません。



Crossing the Chasm

<http://u-shizuoka.seesaa.net/>

## サイエンスライター 佐藤健太郎氏 セミナー『有機化学美術館の13年』

有志の若手教職員と学生による異分野融合フォーラム(9ページ参照)では、本学創立25周年記念イベントの1つとして佐藤健太郎氏をお招きしてセミナーを開催しました。佐藤氏は、37歳で製薬企業の研究職からフリーのサイエンスライターに転職、現在は東京大学の広報担当助教と面白いキャリアをお持ちです。本セミナーには、合計80名を超える学生や教員が参加し、理系学部(薬学部、食品栄養科学部、看護学部、環境科学研究所)だけでなく、文系学部(経営情報学部、国際関係学部)の参加者からも大きな反響を呼びました。また、事務職員や学外からも多数ご参加頂き、まさに異分野の人材が一同に会するこれまでに比類のないセミナーとなりました。本セミナーでは、佐藤氏の運営するウェブサイト『有機化学美術館』の開設秘話から継続によって得られた人脈や信頼について、また大型医薬品の特許切れが深刻な問題となっている医薬品業界の現状等をお話して頂きました。

(薬学部助教 井川貴詞)



佐藤健太郎氏



ほぼ満席状態の小講堂

# 受賞一覧

\*各受賞の詳細については、本学公式サイトニュース&トピックスからご覧いただけます。

## 教員

### 環境科学研究所 三宅祐一助教 ■環境科学会優秀研究企画賞

環境科学研究所の三宅雄一助教が、社団法人環境科学会の2011年度優秀研究企画賞(富士電機賞)を受賞しました。この賞は、環境科学分野の将来を担う若手研究者(満45歳未満)による創意ある優秀な研究企画に対して贈られるものです。  
・研究企画「ハロゲン化多環芳香族炭化水素類の生成・排出機構解析とリスク低減への手法提案」



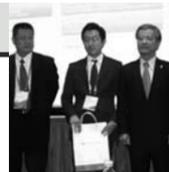
### 薬学部 豊岡利正教授 ■クロマトグラフィー科学会学会賞

薬学部生体機能分子分析学分野の豊岡利正教授が、10月21日(金)に東北大学にて行われたクロマトグラフィー科学会において学会賞を受賞しました。この賞は、分離・検出科学の発展に多大な貢献をされた方に対して贈られるものです。  
・受賞タイトル「蛍光標識試薬の開発とクロマトグラフィー分離検出への応用」



### 薬学部 刀坂泰史助教 ■The 7th China-Japan Cardiovascular Forum若手研究者奨励賞

10月14日(金)、15日(土)に中国・北京で開催されたThe 7th China-Japan Cardiovascular Forumにおいて、薬学部分子病態学分野の刀坂泰史助教が、若手研究者奨励賞(YIA)を受賞しました。この賞は、心血管疾患治療の進歩に寄与する優秀な演題に贈られるものです。  
・演題「Protein arginine methyltransferase 5 suppresses hypertrophic gene transcription in rat cardiomyocytes through the inhibition of p300/GATA4 pathway」



### 経営情報学部 岩崎邦彦教授 ■世界緑茶協会 O-CHAバイオニア賞「学術研究大賞」

経営情報学部の岩崎邦彦教授が、10月17日(月)に世界緑茶協会からO-CHAバイオニア賞「学術研究大賞」を受賞しました。今後のリーフ緑茶の実践的マーケティングの考案に役立つことはもとより、農産品や地域産品のマーケティング理論の進化にも大きく寄与する学術研究成果として評価されました。  
・受賞タイトル「緑茶のマーケティングに関する研究」



### 環境科学研究所 伊吹裕子准教授 ■日本変異原学会研究奨励賞

11月21日(月)、22日(火)に開催された第40回日本変異原学会において、環境科学研究所の伊吹裕子准教授が、日本変異原学会研究奨励賞を受賞し、受賞講演を行いました。この賞は、環境変異原研究分野において顕著な寄与をする発表を行い、かつ将来の研究の発展を期待し得る者に対して授与されるものです。  
・演題「ヒストン修飾を指標とした環境化学物質と光の複合影響に関する研究」



### 看護学部 中垣紀子教授 ■第20回小児がん研究奨励賞

11月25日～27日に開催された第53回日本小児がん学会において、看護学部の中垣紀子教授が、日本小児がん学会機関誌「小児がん」第47巻発表の研究論文「小児がん患児に関する復学支援の取り組み」が小児がんの治療の向上に多大の貢献をしたという主旨で受賞しました。



### 生活健康科学研究科 望月峰子さん ■日本カテキン学会優秀プレゼンテーション賞

9月22日(木)に開催された日本カテキン学会において、生活健康科学研究科食品栄養科学専攻博士課程1年生の望月峰子さん(指導教員:渡辺達夫教授)が優秀プレゼンテーション賞を受賞しました。国内の最新のカテキン研究成果が数多く集まる中での受賞となりました。  
・演題「緑茶カテキンに応答するヒト苦味受容体」



## 学生

### 薬学研究科 高田俊介さん ■9th International Symposium on Trace Elements in Human Conference, student travel grants

10月16日～21日にトルコで開催された9th International Symposium on Trace Elements in Human Conferenceにおいて、大学院薬学研究科医薬生命化学講座修士2年 高田俊介さんが、student travel grantsを受賞しました。この賞はカンファレンスで発表する大学院生のなかで優秀な要旨に贈られるものです。記憶形成に関わる海馬で亜鉛が一過性に減少すると減少時に学習障害がおこることを発表しました。  
・演題「Reversible impairment of cognitive function by transient lack of synaptic zinc in the hippocampus」



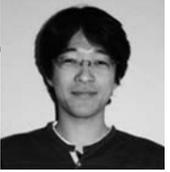
### 経営情報イノベーション研究科 伏見卓恭さん ■第4回Webとデータベースに関するフォーラムWebDB Forum 2011 優秀論文賞

11月4日(金)、5日(土)に工学院大学で開催された、第4回Webとデータベースに関するフォーラム WebDB Forum 2011において、経営情報イノベーション研究科博士後期課程1年の伏見卓恭さんの論文が、優秀論文賞を受賞しました。  
・論文名「ネットワーク機能コミュニティ抽出法の提案」



### 薬学研究科 福島圭稜さん ■第10回次世代を担う若手ファーマ・バイオフィォーラム2011優秀発表賞

10月8日(土)、9日(日)に、東北大学片平キャンパスで開催された「第10回次世代を担う若手ファーマ・バイオフィォーラム2011」において、薬学研究科生化学講座(鈴木 隆教授)博士後期課程1年生の福島圭稜さんが、優秀発表賞を受賞しました。  
・演題「顕著な膜融合活性を示すヒトパラインフルエンザ1型ウイルス変異株の単離とフュージョン糖タンパク質の機能解析」



### 薬学研究科 中村仁聡さん ■メタロチオネイン&メタロバイオサイエンス研究会2011実行委員長賞

12月8日(木)、9日(金)に名古屋で開催されたメタロチオネイン&メタロバイオサイエンス研究会2011において、大学院薬学研究科医薬生命化学講座修士1年生の中村仁聡さんが、実行委員長賞を受賞しました。この賞は研究会で発表する若手研究者のなかで優秀な要旨に贈られるものです。  
・演題「海馬CA1錐体細胞における亜鉛イオンの一過性増加に伴う認知記憶障害」



### 食品栄養科学部 小川美穂子さん ■日本食品科学工学会中部支部大会 一般講演者優秀賞

12月10日(日)に開催された平成23年度日本食品科学工学会中部支部大会において、食品栄養科学部4年の小川美穂子さんが、一般講演者の中から優秀な口頭発表を行った若手研究者に贈られる一般講演者優秀者表彰に選出されました。  
・演題「豆乳による茶飲料の苦渋味抑制機構の解析」

### 経営情報イノベーション研究科 横山航さん ほか ■日本e-learning学会2011年度学術講演会 奨励賞

12月3日(土)に開催された日本e-learning学会2011年度学術講演会において、経営情報イノベーション研究科修士1年の横山航さんら大学院生と経営情報学部生の論文が奨励賞を受賞しました。  
・受賞タイトル「視線情報の可視化による熟練者・非熟練者間の比較分析」



# 教員人事－退職

氏名	所属	職位	退職日	氏名	所属	職位	退職日
平川城太郎	薬学部(薬学科)	助教	平成23年12月11日	白石 葉子	看護学部(看護学科)	講師	平成24年3月31日
望月 和樹	食品栄養科学部(栄養生命科学科)	助教	平成24年3月31日	勝又 里織	看護学部(看護学科)	講師	平成24年3月31日
三輪真知子	看護学部(看護学科)	教授	平成24年3月31日	美濃祐紀子	看護学部(看護学科)	助教	平成24年3月31日
石塚 淳子	看護学部(看護学科)	准教授	平成24年3月31日	岩村 武	環境科学研究所	助教	平成24年3月31日

## USフォーラム2011を開催

9月26日(月)、27日(火)の2日間にわたり、「USフォーラム2011」が開催されました。本フォーラムは本学教員による研究活動を学内外に情報発信する目的で毎年開催されているものです。

今年度のフォーラムでは、平成22年度に採択された学内の研究費(理事長特別研究費、教員特別研究推進費、学部研究推進費)による教育研究成果について、口頭発表54件、ポスター発表79件、要旨集での誌上発表164件、合わせて279件の発表が行われました。また、平成20年度に文部科学省から採択された、グローバルCOEプロジェクトおよびGPプロジェクトについても、それぞれ活動状況等が報告されました。

本フォーラムは、学外の皆様にも広く公開されており、本学教員、学生はもとより一般県民、企業関係者

の皆様を含め382名の方々が熱心に聴講され、活発な討論が行われました。

(USフォーラム実行委員長 山田静雄)



フォーラムの開催に際し挨拶をする木苗直秀学長

## (グローバルCOEセミナー) NZ国立食物・食品研究所との国際共同研究の推進

本学の客員教授であるマーゴット・スキナー博士が来学し、NZ産果実エキスをを用いた共同研究の中間成果発表会を開催しました。博士は、機能性食品の健康増進効果、新規機能性食品の研究開発を手がけ、現在は、NZ国立植物・食物研究所主席研究員およびオークランド大学客員教授として機能性食品の基礎研究から臨床試験まで広範囲な研究に携わっています。今回の講演では、NZ産果実エキスの抗酸化作用と題して、その消化管機能亢進や免疫賦活作用について最近の知見を発表されました。続いて、同エキスをを用いた共同研究成果について、環境科学研究所・榎原啓之助教(生体機能学)と院生の加治いずみさん(D3、環境生理学)、薬学部の瀧 優子助教(薬物動態学)と岡島亜衣さん(6年生、医薬生命化学)の4名の学生・若手研究者が発表し、活発な討論で会場は盛り上がりました。今後、NZと

の機能性食品の基礎及び応用・開発研究を一層推進させる上で、有意義な集会成为ったことを報告します。

(薬学部教授 山田静雄)



## 第16回静岡健康・長寿学術フォーラム 第4回国際健康長寿科学会議(ICHALS)の開催



「第16回静岡健康・長寿学術フォーラム」が10月21日(金)~22日(土)の2日間、グランシップで開催されました。当フォーラムは、平成7年から毎年秋に開催されており、今回で16回目となります。なお、今回は本学グローバルCOEプログラム拠点主催の国際健康長寿科学会議(ICHALS)をセッションの一部として実施し、その研究成果発表の場ともなりました。

今までのフォーラムは静岡県が中心となり開催されてきましたが、今年初めて、静岡県立大学が、静岡大学、浜松医科大学、静岡県と共同で企画と運営を行いました。

今年のフォーラムは、「異分野の科学が融合して健康長寿社会を創造する」をテーマに2日間に渡り開催され、3カ国31名の講師と延べ1,477名の参加者があり、新聞にも連日報道されました。

フォーラムでは、知事の挨拶、木苗学長(実行委員長)の挨拶とフォーラムの今昔に関する講演の後、国立長寿医療研究センターの大島伸一総長の基調講演がありま

した。その後、本学の「医薬食融合」と静岡大学の「メディカルエンジニアリング」、浜松医科大学の「こころのケア」等、各大学の特長ある研究成果の発表が6セッションに分けて行われました。

また、新たな試みとして、ポスターセッション「健康長寿科学の新展開」があり、専門分野が異なる3大学の若手研究者等86名が健康長寿に関する研究発表と交流を行いました。

一日目の夜には、レセプションが行われ、海外からの研究者のスピーチやポスター賞受賞者の表彰が行われる等華やかな雰囲気の中で、講師と参加者が歓談し交流を深めました。

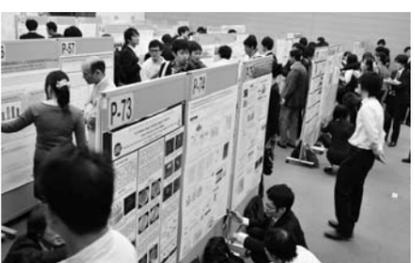
今後、当フォーラムが「健康長寿」の増進に寄与し、「産・学・民・官」のネットワークを広げ、より充実したものとなるように努めたいと考えています。

### ポスター賞の受賞者

氏名	所属	発表タイトル
井上 聖哉	静岡県立大学生活健康科学研究科	Transcriptional regulatory mechanism of jejunal SI and SGLT1 genes in rats by intake of a high-starch/low-fat (HS) diet via histone code
井上 思織	静岡大学工学研究科	Photosensitized damage of biomolecules by water-soluble porphyrin
大島 卓之	静岡大学創造科学技術大学院	Identification of membrane progesterin receptors (mPR) in goldfish oocytes as a key mediator of steroid non-genomic action: a possible target for novel pharmaceuticals
大畑 佳久	静岡大学創造科学技術大学院	Major regulators of aging start working from early developmental stage in Vertebrates
川邊 圭佑	静岡県立大学薬学研究科	Effect of consumption of catechin-rich green tea on pharmacokinetics of simvastatin in healthy volunteers
呉 静	静岡大学創造科学技術大学院	Functional-food constituents in Stropharia rugosoannulata
猿渡 隆佳	静岡県立大学薬学研究科	Total engineered biosynthesis of tetrahydroisoquinoline antibiotics in yeast
藤木 定弘	静岡県立大学薬学研究科	Application of a crystalline transition of clarithromycin to develop novel sustained-release tablets
外村 和也	浜松医科大学 薬理学講座	The discovery of bacteria in the oral onset hemorrhagic stroke, and analyze of its mechanism
Min Thura	浜松医科大学メディカルフオトニクス研究センター	GINKGOLIDE B PREVENTED NEURONAL DAMAGE IN ACUTE CEREBRAL ISCHEMIA BY SUPPRESSING CALCIUM INFLUX



川勝静岡県知事の挨拶



ポスターセッションは企業の方も交えた意見交換の場となりました。

## はばたき寄金からのお知らせ 第14回スピーチコンテスト・第15回文芸コンクール 創造力啓発コンテスト

剣祭2日目の10月30日(日)、はばたき寄金運営委員会主催による学生スピーチコンテストが開催されました。今年は、「災害と文明を考える」をテーマに、各学部・研究科から参加した学生らが熱弁をふるいました。

### 受賞結果

部門	賞区分	所属	氏名
日本語の部(日本人) (参加者5、前年度6)	最優秀賞	薬学部	成島 悠太
	優秀賞	薬学部 経営情報学部	竹田 健吾 山田 剛史
日本語の部(留学生) (参加者6、前年度5)	最優秀賞	経営情報学部	スー モン イー
	優秀賞	国際関係学研究所 国際関係学部	烏日娜 ジョン ジンソク
英語の部 (参加者5、前年度5)	最優秀賞	国際関係学研究所	清水 敬也
	優秀賞	生活健康科学研究科 食品栄養科学部	グローリア コージョ ギ キンリツ

また、当日は、スピーチコンテストに引き続き、第15回学生文芸コンクールと創造力啓発コンテストの表彰式も行われました。文芸コンクールの応募総数は78作品で、昨年の73作品をわずかながら上回り、想像力啓発コンテストとともに、多種多様なテーマで多くの作品が寄せられました。

### 学生文芸コンクール受賞結果

応募総数78作品(短編小説3、詩15、短歌8、俳句10、川柳27、ノンフィクションなど5、イラスト9、評論・エッセイ1)

部門	賞区分	作品名	所属	氏名
短編小説 (応募3)	優秀賞	影踏	看護学部	大谷 美緒
	佳作	異端のままに	国際関係学部	伊藤 桃
詩 (応募15)	最優秀賞	絵のようなことば	国際関係学部	伊藤 桃
	優秀賞	理論を知らない女の子	国際関係学部	伊藤 桃
		終わりのにおい	看護学部	飯田 百恵
	佳作	外付け記憶装置	食品栄養科学部	守屋 智恵美
		音	生活健康科学研究科	片野 雄太
		情熱の在り処	看護学部	飯田 百恵
		しあわせ	看護学部	大谷 美緒
		エコの唄	食品栄養科学部	増井 大裕
	努力賞	一日	薬学部	松本 暁人
		心の本の心	薬学部	矢澤 嶺
短歌 (応募8)	優秀賞	日中友好訪中団 他	国際関係学部	伊藤 桃
	佳作	台湾旅行の景色	国際関係学部	土屋 仁美
		自白日和	薬学部	高橋 瞳
	努力賞	この先の香り	国際関係学部	牧野 剛
		香り 他	薬学部	長尾 竜治
俳句 (応募10)	最優秀賞	研究者魂 他	生活健康科学研究科	山梨 智也
	優秀賞	蛾の抒情歌	国際関係学部	牧野 剛
		友との別れ 他	食品栄養科学部	林 美香
	佳作	犬の散歩	薬学部	成島 悠太
		ひとこいめぐり	看護学部	大谷 美緒
	努力賞	春花粉 他	薬学研究科	安藤 靖
京都 他		薬学部	田野 佑馬	
	秋の訪れ 他	薬学部	森下 茉莉子	
	初冠雪 他	生活健康科学研究科	山梨 智也	



テーマについて、自らの考えをそれぞれに主張する学生たち

部門	賞区分	受賞者		
		氏名	所属	
川柳 (応募27)	優秀賞	宝くじ 他	薬学研究科	鈴木 将大
		震災復興 他	生活健康科学研究科	小野寺 溪斗
		大和撫子 他	食品栄養科学部	増井 大裕
	佳作	地井武山 他	薬学部	板野 太亮
		加齢 他	薬学部	滝口 茂幸
		二度寝 他	薬学研究科	筒井 陽仁
		日本オワタ 他	薬学部	藤井 慎也
		礼儀or節電 他	食品栄養科学部	関 紗織
		変怠	看護学部	大谷 美緒
	努力賞	旅	薬学研究科	尾山 大
		緑茶 他	薬学部	出口 和輝
		交通安全 他	薬学部	諸富 貴史
		春 他	薬学部	渡邊 裕貴
		就職難 他	食品栄養科学部	小松 雪乃
		実験 他	薬学部	保坂 大樹
地震 他		薬学部	古川 琢麻	
結局 他		薬学部	松本 暁人	
私の6年間の大学生活		生活健康科学研究科	飯尾 美沙子	
糖尿病 他	薬学部	成島 悠太		
HPLCあるある1 他	生活健康科学研究科	山梨 智也		
ノンフィクション など(応募5)	努力賞	時間を語るもの	国際関係学部	土屋 仁美
イラスト (応募9)	佳作	少女	薬学部	小佐野 郁香
		小宇宙	薬学部	清水 佑記
	努力賞	未来を担う	薬学部	長谷川 由起子
評論・エッセイ(応募1)	努力賞	水鏡	食品栄養科学部	守屋 智恵美
		中庭のおでん	国際関係学部	伊藤 桃

### 創造力啓発コンテスト受賞結果 応募総数5作品

賞区分	作品名	所属	氏名
優秀賞	服薬確認システム	薬学部	成島 悠太
アイデア賞	階段に消費エネルギー表示 ～節電と運動で一石二鳥～	食品栄養科学部	小松 雪乃



学生文芸コンクールの表彰式



参加者全員での集合写真

### はばたき寄金に寄附を してくださった方々(敬称略)

[平成23年3月～12月分]

神正子(国際関係学部)、山田静雄(薬学部)、小谷野俊夫(国際関係学部)、吉村紀子(国際関係学部)、増田修一(食品栄養科学部)、米谷民雄(食品栄養科学部)、大島寛史(食品栄養科学部)、中山勉(食品栄養科学部) 他 匿名多数

## 短期交換留学生の紹介

本学と交流協定を締結しているフィリピン大学とブレイメン州立経済工科大学から留学生が来日し、本学の国際関係学部で学んでいます。留学生の皆さんに留学生活についてきました。

### タデーナ ダニエスさん (フィリピン大学 人文社会学部)

初めはホームシックになると思いましたが、皆さんがとても親切で、すぐに日本の生活になじむことができました。日本は、フィリピンと比べてとても寒く、食べ物がおいしく、清潔で美しいです。日本語の授業は大変ですが、先生やクラスメイトがとても親切です。私は映画が好きなので、県大のSALL(Self-Access Language Learning Center)が気に入っています。

タデーナさんは本学に半年間通学し、日本語や日本文化について学びます。

### ウォルフスキー ロニーさん (ブレイメン州立経済工科大学 経済学部)

大学に入学する前に12年間ドイツの海軍にいました。その時に世界中を訪れて様々な国の文化や人に触れたことがきっかけで、日本への留学を決めました。授業では県大の学生と一緒にプレゼンをすることがあり、難しいと思うこともありますが楽しいです。英語と日本語の2ヶ国語で行われる講義がとても面白いです。

### グルンデマン ニルスさん (ブレイメン州立経済工科大学 経済学部)

旅行が趣味で日本にとっても興味がありました。日本での留学生活は、ドイツと似ている点が多くて良かったです。日本人は、面白くて優しいです。時々、文化や考え方の違いに驚くこともあります。今は日本での生活が楽しく、帰国後もまた日本を訪れたいと思っています。

### シュルツ カトリンさん (ブレイメン州立経済工科大学 経済学部)

語学に興味があり、今までにイタリア語と英語を学びました。日本には日本語の勉強のために来ました。日本語はドイツ語と違い、とてもおもしろい言語です。今は友達と遊びに行くことがとても楽しいです。静岡は私の生まれた町と同じくらいの大きさで、人がとても優しく、良い所だと思います。

ブレイメン州立経済工科大学の3人は本学に半年間通学し、残りの半年間で、企業でのインターンシップを体験します。



右から木苗学長 留学生 タデーナ ダニエスさん  
小幡国際関係学部教授



右から木苗学長  
留学生 ウォルフスキー ロニーさん  
マティアス・ファイファー国際関係学部准教授 留学生 グルンデマン ニルスさん  
留学生 シュルツ カトリンさん 山田副学長



右から木苗学長  
留学生 ウォルフスキー ロニーさん  
留学生 グルンデマン ニルスさん  
留学生 シュルツ カトリンさん

## 世界のファッション、踊り、歌を披露 留学生交流会を開催

10月1日(土)、留学生交流会を開催しました。会場となった学生ホール食堂には、100人を超える参加者が集い、留学生や日本人学生が作った自国の料理、民族衣装のファッションショー、留学生の歌や踊りなどを楽しみながら、交流を深めました。

### 留学生のコメント

毎年10月初旬に留学生交流会を開催しています。留学生それぞれの母国の文化、料理、民族衣装、歌などを紹介することで交流を楽しんでいます。今年は、静岡県立大学創立25周年にちなんで「祝」というテーマで盛り上げました。

私は、IFC(International Friendship Club)のメンバーとして、留学生として、他の留学生や日本人学生、教職員の皆さんと一緒に楽しい時を過ごすことができました。世界各地のおいしい料理が食べられるし、故郷の歌が聴けるし、情熱的なダンスや国々の伝統的な踊りも見られて、想像以上の大成功になりました。

これからも各国間の異文化、言語の壁を超えるためにこのような留学生のみならず日本人学生の交流の機会を増やしていきたいと思っています。

(食品栄養科学部2年 レー ティ テウイ ティエン ベトナム出身)



## 「静岡県立大学“産・学・民・官”の連携を考えるつどい2011」を開催

7回目となる「産・学・民・官」の連携を考えるつどい2011」を11月18日(金)に開催しました。

今回は、「お茶の機能と健康」をテーマに、第1部「産学民官連携セミナー」、第2部「研究成果発表・交流会」の2部構成で開催しました。

第1部「セミナー」は、14時00分から大講堂で行いました。木苗直秀学長、吉林章仁静岡県経済産業部長のあいさつ、私からの「本学の産学民官連携活動」の紹介に続き、茶業をめぐるトピックスとして、中村順行静岡県農林技術研究所茶業研究センター長から、「茶と放射能～安心して静岡茶を飲んでいただくために～」と、食品栄養科学部の中山勉教授から「新規茶飲料開発の取組」の講演を行いました。

さらに、特別講演として、ネスレ日本株式会社ネスレリサーチ東京所長であり、東京大学総括プロジェクト機構 総括寄附講座「食と生命」特任教授のファブリツィオ・アリゴニ先生から「Industry/Academia partnership: current challenges and opportunities(産学パートナーシップ:現在の課題とチャンス)」をテーマに講演いただきました。

第2部は、16時30分から学生ホールで、「研究成果発表・交流会」を開催しました。

全学部の教員が55ブースで、日頃の研究内容のポスターを掲示し、来場者に説明したり、情報交換や名刺交換をしました。試作品や試食品を展示してアピールした教員もいました。学内で、全学部の研究内容を知る機会とあって、教員・学生の交流も図られました。

学外からも、県の主要施策である静岡県新産業集積クラスターの紹介、公設試験研究機関、産業支援団体含め11機関が出展し、本学教員等と交流しました。その他、企業や保護者、卒業生の参加もあり、産学民官連携のきっかけの場となりました。

このイベントを通して、産・学・民・官の連携による地域産業・地域社会へ貢献のヒントが得られたものと思います。学内外の多くの方にご参加・ご協力をいただきまして、厚くお礼申し上げます。

(産学官連携推進本部 本部長(副学長) 山田静雄)

### 第1部 産学民官連携セミナー



木苗学長

吉林県経済産業部長



山田本部長

中村センター長



中山教授

アリゴニ特任教授

### 第2部 研究成果発表・交流会



## 「日韓関係」「北朝鮮」で県民公開シンポや特別講義などを開催 — 現代韓国朝鮮研究センター —

11月から12月にかけて、現代韓国朝鮮研究センター(センター長:伊豆見元)では、本学創立25周年記念事業として次の3つの行事を実施しました。

- 県民公開シンポジウム「震災後の日韓関係と協力のあり方」(11月1日(火)、基調講演:崔相龍・元駐日韓国大使、パネラー:伊豆見元、尹大榮、奥園秀樹各本センター研究員)
- 特別講義&フリートーク「これからの日韓関係と国際社会で日本の若者に期待すること」(11月21日(月)、講師:張済国・[韓国]東西大総長)
- 特別講義「北朝鮮とどう向き合うか—報道の現場から」(12月7日(水)、講師:磐村和哉・共同通信社前平壤支局長、塚本壮一・NHK国際部副部長、討論者:伊豆見元)

シンポジウムでは、崔元大使が震災後の日本人を「節制の美德」と表現し、11月に行われた特別講義とフリートークでは張総長が「日本はこれまでの経験にプライドを持って行動してほしい」と激励し、聴く者の関心を引き付けました。12月に本学で行われた特別講義では、その直後に「金正日急死」というピックアップニュースを迎えただけに、聴講した学生らにとっては「事前学習」となりました。

なお、崔元大使は1月17日(火)にも「日本の若者へ語りたい:韓国と日本、社会と世界」と題した特別講義を本学学生向けに行いました。

一方、11月29日(火)、本学と交流協定校にある韓国の延世大原州キャンパスで、日韓合同ゼミを開催しました。本学からは、小針ゼミ(国際関係学部)の3~4年生16名が参加し、延世大の政経学部学生約30名と「東日本大震災と日韓両国それぞれの課題」というテーマで議論しました。参加者のひとり露木琴乃さん(国際言語文化学科英米コース3年生)は、「韓国での被災者支援の募金やボランティアでの両国学生の協力のあり方をめぐり白熱した議論となったが、冷静な議論ができた」と述べています。



基調講演する崔相龍・元駐日大使(11月1日、グランシップ)



日韓合同ゼミで議論する本学学生と延世大生(11月29日、延世大原州キャンパス)

## 静岡三大学生命・環境コンソーシアム連携事業 野外講義 「森林生態系の観察をととした太平洋型ブナ林の多様性について」を開催

大学院生活健康科学研究科環境物質科学専攻では、地域環境の現状と変遷を学び、保全対策等を発信する人材の育成を目指して、フィールドワーク演習を実施しています。今年度は、静岡県の西部に位置する佐鳴湖の湖水や底泥のサンプリングおよび評価法の修学(2011年9月28日実施)に加え、静岡大学農学部付属中川根演習林およびその周辺自然・人工林において、森林生態系の観察をととした野外講義を10月22日(土)に行いました。なお、この講義は、静岡県立大学・東海大学・静岡大学に所属する修士学生が参加する、「連携講義」としても位置づけられています。実施日の数週間前に静岡県を襲った台風と豪雨の影響により山道が寸断されたため、当初の予定を大幅に変更せざるを得ませんでした。野外講義のコーディネータ(水永博己先生:静岡大学農学部教授)により、以下の参加メンバーおよびスケジュールで無事進めることができました。

本学から、生活健康科学研究科環境物質科学専攻の修士1年生およびスタッフ13名、東海大学海洋学部・海洋学研究所から1名、静岡大学から海外留学生1名と現地スタッフを含む6名、計20名が参加しました。静岡を出発し、島田経由で中川根に入り、ウッドハウスおろくぼ(研修室)にて休憩、昼食をとりました。その間、水永先生および水永研究室所属大学院生より、ブナの豊凶の周期性・同調性に関する調査報告とそれを裏付ける仮説などの興味深いお話を伺いました。その後、現地スタッフである梶川泰一、宇佐美敦両氏のサポートを受け、森林生態観測として、山伏段手前5kmに位置する大札山森林公園のトレッキングを行いました。この間、公園内の森林植生とシカ害に関する

説明を水永先生より受け、再びおろくぼ山荘にもどり、トレッキングで採取した初秋の葉のクロロフィル蛍光反応に関する測定実験(楢本正明先生:静岡大学農学部助教)を行いました。最後に水永先生から講評をいただき、野外講義が終了しました。

フィールドワーク反省会において参加した学生に対して行なったアンケートでは、「参加して非常に良かった」等の意見が多くみられ、このような体験を通して普段の生活環境では触れることができない自然環境を垣間見ることができ、かつ、その生態を学ぶことは多くの学生にとって貴重な体験になると感じられました。今後、三大学の得意分野を連携させながら森林、湖沼、海洋、中心市街地や廃棄物埋立地などの静岡県域をフィールドとし、農業などの食料生産現場、自然保護活動などを体験するフィールドワークプログラムへさらにその内容を充実させていきたいと考えております。

(大学院生活健康科学研究科 牧野 正和、岩堀 恵祐)



## 環境科学研究所・地域環境啓発センターより

### 1. 大学祭のイベントに参加 「マイボトルdeおいしいお茶を」

担当: 下位香代子, 斎藤貴江子, 榎原啓之, 杉山育子

10月29日(土)、30日(日)の2日間にわたって、エコ活動(マイボトル運動)のとりくみのために、また、緑茶のおいしさを理解していただくために、大学祭のイベントの一つとして当センターの主催で「マイボトルdeおいしいお茶を」を企画し、以下のことを行いました。

- ①マイボトルの展示とボトルに関するアンケート調査
- ②前田富佐男氏((株)前田金三郎商店 代表取締役)によるセミナー
- ③おいしいお茶の入れ方と飲み方(実演)
- ④6種類のお茶のティーテイasting
- ⑤お茶に関するクイズ
- ⑥給茶スポット、お茶の種類など資料の配布

②のセミナーでは、『お茶通王の挑戦!お茶を脇役にした店作り・町磨き』というテーマでご講演いただきました。テレビ番組で「お茶通王」に輝いた前田氏のお話ということで、多くの学生や一般の方が聴講されました。お茶の成分、お茶の種類についての説明、茶は脇役で、それに付随するやすらぎの提供の大切さなど、店を開くに至ったいきさつも含めお話くださいました。来場者の様子からお茶について関心が深いことがわかり、本セミナーが大変有意義なものとなりました。③と④については、ティーインストラクターの川尻氏が、ティーテイastingコーナーで、来場者に6種類のお茶を提供し、お茶について解説してくださいました。茶葉によって淹れ方が異なり、おいしく飲むための温度や蒸らし方について指導してくださいました。すべてをきき当てるのはむずかしかったようでした。①と⑥については、いくつかのボトルを展示し、県内にある給茶スポットを紹介しました。給茶スポットについては知らなかった方も多く、大変好評でした。今後のマイボトル運動のために来場者にアンケートにご協力いただきました。当日は2

日間とも大盛況で、200名余りの方がご参加くださいました。

なお、本企画を行うにあたり、静岡県廃棄物リサイクル課、静岡県茶業会議所、静岡県茶業農産課、望月茶鉛本舗のご協力をいただきました(感謝いたします)。一人でも多くの方がおいしい緑茶を淹れたマイボトルを持参するよう、今後もマイボトル運動を促進し、エコ活動に取り組んでいきたいと思っています。

### 2. 環境科学講座

「光と現代社会 ～電波から放射線まで、光利用とその影響についてもっと知ろう、学ぼう、そして考えよう～」

担当: 下位香代子, 塩澤達志, 関川貴寛, 榎原啓之, 小林亨, 杉山育子

静岡県くらし・環境部環境局環境ふれあい課との共催により、上記テーマで、11月2、9、16日の水曜日の午後7時から8時30分まで、B-nest静岡市産学交流センタープレゼンテーションルーム(ペガサート6階・静岡市葵区)にて開講しました。私たちは、太陽光の恩恵を受けて生活しており、また、科学技術の進展により、様々な種類の光を利用して生活しています。一方で、現代社会は、グローバル化に伴い24時間型社会となり、夜中でも光に暴露されることが多くなってきました。私たちの生活に欠かすことができない様々な種類の光の自然環境やヒトの健康への影響について、学び考えたいと企画しました。当研究所の教員2名と静岡県工業技術研究所の上席研究員1名の先生方による下記の講演が行なわれました。

- ①鈴木 敬明(静岡県工業技術研究所上席研究員): 人間は光から何を感しているのだろうか?
- ②榎原 啓之(環境科学研究所助教): 光と生物リズム
- ③豊岡 達士(環境科学研究所助教): 光と化学物質のシナジー効果: 1 + 1 = 2?

今年度は、高校生にも参加を呼び掛けたので、市内の高校から30名ほどの高校生が参加し、毎回60名程度の方々が熱心にご聴講くださいました。講演後の質疑応答では、活発な議論が行なわれました。また講演後のアンケートによれば、理系離れが進んでいる昨今、高校生も参加してよかった、身近な光に関する講義で充実した内容であり興味深かった、配布された光マップは大変役に立ち、おもしろいなどの意見がありました。

### 3. 静岡環境フォーラム21 ～県立大学創立25周年記念～

「光と現代社会 ～電波から放射線まで、光利用とその影響についてもっと知ろう、学ぼう、そして考えよう～」

担当: 下位香代子, 桑原厚和, 塩澤達志, 関川貴寛, 斎藤貴江子, 杉山育子

一般県民の方々を対象とした「静岡環境フォーラム21」が、環境科学研究所・地域環境啓発センターの企画で、11月26日(土)にB-nest静岡市産学交流センターにて開催されました。本フォーラムは、環境研究の交流と発展のために、当研究所、静岡県環境衛生科学研究所、静岡県工業技術研究所の県内三機関が主催し、毎年開催していますが、今年度は、本大学の創立25周年記念として開催いたしました。

今年度は、11月に開講した「環境科学講座」と同じテーマ

「光と現代社会 ～電波から放射線まで、光利用とその影響についてもっと知ろう、学ぼう、そして考えよう～」で、3名の講師による下記の講演及び「環境科学講座」の3名の講師(鈴木敬明上席研究員、榎原啓之助教、豊岡達士助教)も加わっていただき、パネルディスカッションを行いました。

- ①酒井一夫 放射線防護研究センター長(放射線医学総合研究所): 人と放射線の関わり
- ②川上 幸二 博士(元環境省光害対策検討会委員・照明学会専門委員): 光の作用効果と光害問題
- ③北宅 善昭 教授(大阪府立大学大学院農学生命科学研究科): 光環境と植物
- ④パネルディスカッション: 座長(下位香代子 教授: 地域環境啓発センター長)

本フォーラムには、80名近くの方が参加されました。現代社会における光の利用とそれがもたらす自然や人の健康への影響について、基礎から応用まで、放射線、光害、LEDの植物への利用を中心にそれぞれのご専門の立場からご講演くださいました。パネルディスカッションでは、参加者からの質問を中心に活発な議論が行われ、光環境をとりまく様々な環境と健康に関して大変興味をもってくださいました。また、アンケート結果からも、どの話も初めて知ったこともあり、身近な生活の中で参考になり、充実した内容で満足できたとの意見が数多く寄せられました。また、新聞紙面にも掲載されました。

昨年度に続き3回の講座と本フォーラム全てを聴講された方々(一般14名、高校生と先生10名)には修了証を贈呈しました。



## 「薬食総合研究センター」創設に向けて一勉強会の開催

近年、ヒトを対象とした医薬品および機能性食品の効果効能や、その併用による相互作用を含めた安全性について、信頼性の高い臨床研究が求められています。本学は、平成14年からスタートした21世紀COEプログラムとグローバルCOEプログラムにより、薬・食に関する多くの研究成果を挙げ、その専門家を輩出し、国内唯一の薬・食研究拠点を形成しつつあります。こうした医薬品や機能性食品の基礎研究成果を、臨床で実践する橋渡し研究を行うことにより、医薬品の開発・効能拡大や機能性食品の開発を支援することを目的に、「薬食総合研究センター」(仮称)の設置を提案しております。

本センター創設に向けて、9月13日(第1回)、10月31日(第2回)、12月8日(第3回)に学内セミナー(勉強会)を開催しました。医薬品や機能性食品の臨床試験受託会社の専門家や静岡市内クリニックや病院勤務の医師により、本センターでの県大方式の薬・食の臨床研究の指向性などについて議論していただきました。学内外から多くの方々(学外者:製薬企業、食品会社、静岡県、ファルマバレーセンター、静岡工業技術研究所など)にご参加いただき、意見交換をしました。特に、第3回の勉強会では、泌尿器科領域の医薬品の臨床試験に焦点を当

て、これまでの臨床試験の問題点を解消すべく、県大方式の臨床試験の特長について議論していただきました。

(薬学部教授 山田静雄)



第1回勉強会では、学内外から約130名が参加しました

## 第4回排尿障害モデル動物研究会の開催

11月25日、第4回目となる排尿障害モデル動物研究会を開催しました。この研究会は、近年患者数が増加している排尿障害のメカニズムの解明と新規治療薬の開発を目的に、平成20年8月29日に静岡市で開催し、その後毎年開催しています。特色は、第一線で活躍中の泌尿器科臨床医を始めとして、製薬企業、大学などの研究者が一堂に参加し、具体的な「治療」に役立つ指向性を見出すことです。

特別講演では、アムステルダム大学医学部薬理学講座のMartin C Michel教授が、「Why are  $\beta_3$ -adrenoceptor agonists promising for the treatment of overactive bladder?」と題して、現在排尿領域で関心が高い膀胱 $\beta_3$ 受容体の薬理作用やそのアゴニストの新規過活動膀胱治療薬としての臨床的意義について講演していただきました。

教育セミナーでは、辻本豪三先生(京都大学大学院薬学研究科ゲノム創薬科学分野教授)が、「脂肪酸受容体の機能と創薬」と題して、最近発見された脂肪酸受容体の生理機能と、糖尿病などの疾患の新規創薬ターゲットとしての可能性について興味深い講演をしていただきました。一般演題(20題)は、大学や企業の研究者から排尿障害モデルを用いた最新の発表があり、特に、特別セッションの「実験動物を用いた排尿機能測定・薬効評価法」では、マウスや腹圧性尿疾患モ

デルラットでの排尿測定や薬効評価に関して議論していただきました。

参加者も年々増加し、今回は、製薬企業や大学などから約150名が参加し、実験の方法論や研究上の疑問点などについて活発な討論が交わされました。本学とグローバルCOEより学会助成の御支援を頂きましたことをお礼申し上げます。

(薬学部教授 山田静雄)



多くの参加者で埋め尽くされた会場、静岡市グランディエール・ブクレーカイにて

## 平成23年度実験動物慰霊祭

12月3日(土)、静岡県立大学小講堂において実験動物慰霊祭が執り行われました。慰霊祭には、木苗直秀学長をはじめ各学部・研究科の教職員、大学院生、学部学生、研究生などあわせて200名以上が参列しました。木苗学長から式辞があり、引き続き教職員を代表して環境科学研究所・榊原啓之助教、大学院生を代表して薬学部・石井貴之さん、学部学生を代表して食品栄養科学部・山田雄司さんが、それぞれ弔辞を述べました。最後に参列者全員で、研究や実習で犠牲になった動物の霊に黙祷を捧げました。

なお、これまで実験動物慰霊祭では、初代学長の故内園耕二先生の筆による「実験動物之霊」と書かれた掛軸を使用してまいりましたが、長年の使用によりだいぶ傷んでおりました。今年度より、生活健康科学研究科食品栄養科学専攻の田里李奈さん(平成22年度修了)から自らの書になる掛軸を寄贈していただいたものを使用しております。

(動物実験センター運営委員会)



教員代表 榊原先生による弔辞

## 防災訓練を実施

本年度も、11月8日(火)第2時限目に防災訓練を実施し、学生・教職員約1,500名が参加しました。突発的な地震の発生に伴い、学内で火災が起きたことを想定し、最寄りの避難場所への避難訓練を行ったほか、静岡市石田消防署の協力により各種訓練(消火、煙体験、地震体験)や、安否情報システム(※)への安否情報登録訓練を行いました。また、大講堂では、防災ボランティアサークル「防'z(ボウズ)」の学生の協力により、救急救命講習を実施しました。

これに先立ち、10月には、教職員による自衛消防訓練を実施し、屋内外の消火栓からの放水訓練、非常用発電装置の操作訓練を行いました。

今後も防災・防火対策に全学を挙げて取り組んで参ります。

※安否情報システムでは、災害時に、学生・教職員の安否を確認できます。  
静岡県立大学安否情報システム

<http://anpi.u-shizuoka-ken.ac.jp/>



救急救命講習の様子



煙体験訓練の様子

## 県大を走る! 第3回学長杯争奪学内駅伝大会

12月17日(土)、第3回学長杯争奪学内駅伝大会を開催しました。大学のグラウンドを出発し、県立美術館裏や芝生園地など学内約2.5kmのコースを、1人1周、1チーム5人で駆け抜ける大会には、24チーム計136名が出場したほか、応援やスタッフとして多くの学生・教職員が参加しました。



ピストルの合図と同時に一斉に駆け出す選手たち



ゴールまでラストスパート!



参加者には温かな豚汁もふるまわれました



### 優勝チームのコメント

今年の駅伝大会は、見事に雲ひとつない快晴でした。絶好の駅伝日和のなか、過去2回の大会では手が届かなかった部門優勝と、まさかの区間賞を同時に獲得できたことを心より嬉しく思っております。

私は陸上経験が一切無いので、区間賞の発表で自分の名前が呼ばれたときは何かの手違いかと思いました。表彰時には、賞が取れたという喜びで思わず涙が出そうでした。

私たちのチームは、男子バスケットボール部OB×4と、助っ人の女子バスケットボール部員×1という編成になっており、区分は男子一般でした。チーム名の「ゆるふわ系田舎娘」は、紅一点の女子部員が由来です。男子一般という枠組みで精一杯走ってくれた彼女には、OB一同大変感謝しています(感謝の気持ちは賞品の図書券の分配で表しました)。

この駅伝大会の素晴らしいところは、コースが短いので誰でも気軽に参加しやすいということです。今まで駅伝大会に参加したことが無い方も、今回は見送ってしまった方も、学部・研究室・部活・サークル・etcの仲間を誘って、来年は一緒に県大の坂をノンストップで駆け登りましょう!

(経営情報学部4年 山岸祐己)



ゴール!!

男子運動部の部(参加:6チーム) 男子一般の部(参加:7チーム)

優勝/ジョグ部男子チーム 48分17秒

優勝/本日上京☆ゆるふわ系田舎 4分23秒

男女混合の部(参加:10チーム) 女子の部(参加:2チーム)

優勝/Teamマーシー 55分47秒

優勝/常笑 1時間03分20秒

男子区間賞 08分40秒 女子区間賞 10分36秒



## はばたきカフェの開催

木苗学長の発案で始まった、学生と学長、教職員が自由に語りあう場としてキャンパス・フリートーク(通称:はばたきカフェ)を昨年度に引き続き開催しました。

今年度は1月までに3回開催され、「防災」をテーマにした回、学生との協働による回、「新成人を祝う」として静岡県の誇るお茶に関する講演やワークショップを行った回といったように趣向を変えながら、バラエティに富んだものとなりました。

それぞれの回において、積極的な意見が交わされ、リラックスした雰囲気の中で、大学を活性化していこうとするエネルギーを感じることもできる場となりました。



各回ごとに木苗学長からメッセージが寄せられました



第1回 非常食の試食をしながら防災について語り合う学生と教職員



第2回 経営情報学部サークルMIICによるクリスマス企画



第3回 新成人代表の挨拶



### 「学生選書ツアー」



私たちが参加しました



皆さん熱心に選んでいます



選書ツアー本の展示

11月29日(火)に県大及び短大部附属図書館合同の2キャンパス学生選書ツアーを行いました。午後6時30分に集合するや否や、選書用のしおりを手にして各人勢よく目指すコーナーに向かいました。自分で読みたい本、友達に薦めたい本、図書館に置いてほしい本など、思い思いに選んでしおりを挟んだ本が書店のブックトラックに並べられていきます。意見が合ってしまったようで同じ本が並ぶということも…。ツアータイムは瞬く間に過ぎていき、午後8時ジャスト、選書ツアーが無事終了です。

こうして選ばれた本は、参加者が手作りした内容紹介のポップを添えて展示され、皆さんの利用を待つこととなります。展示している最中に手に取られる本も多く、展示コーナーはすぐに品薄になり、学生目線の本を選ぶ効果を実感しています。

### 「図書館改修報告」No.2



1階グループ学習室



3階 フロア

前回の『はばたき』118号の報告後に新しくなったコーナーを紹介します。

1階のグループ学習のできる2つの部屋に鮮やかな配色で自由に組み合わせができる机と椅子が入りました。また、3階のフロアでは、優しい色合いのロールスクリーン・縦ブラインドとカーペット、そして一揃えのユニークな形のテーブルが新しくなりました。改修完了後には、活気に満ちた利用が期待されます。

また、館内貸出PCの台数も増える予定です。ぜひ、新しくなる図書館内にお気に入りの場所を見つけてください。

### 本学教員からの寄贈著書

2011年8月13日から2011年12月9日までの先生方からの寄贈著作資料は次のとおりです。(受入順)

嵯峨 隆先生(国際関係学部)

『中華民国の憲政と独裁 1912-1949』慶應義塾大学出版会(312.22/ku11)

川北 博先生(経営情報学部)

『ゼロからわかる国際財務報告基準』税務経理協会(336.92/ka94)

### シリーズ 私の1冊の本

このコーナーでは、先生方がこれまでに読んで感銘を受けた本や印象に残っている本を紹介しています。紹介される本は専門分野に関連した興味深い本のほか、専門とは全く離れたジャンルの本のこともあります。講義のときとは一味違う切り口による専門分野の解説や思いがけない趣味や人生経験の披露などに先生が少し身近に感じられるかもしれません。ここで紹介する本は図書館で受け入れていますので、是非一度この機会に手にしてみてください。

環境科学研究所 助教 唐木晋一郎

- 紹介図書名：『コーヒーが廻り世界史が廻る 近代市民社会の黒い血液』（中公新書 1095）
- 著者名：白井隆一郎 著
- 出版社名：中央公論社新社
- I S B N：4-12-101095-7
- 図書館所蔵：中公 / 1095



朝 研究室の一日は一杯の珈琲からはじまる。地球儀型のアンティークハンドミルに吸い込まれてゆく焙煎されたまだ間もない珈琲豆。取手から伝わってくる、やや粗く挽かれる豆の硬さと立ち昇る芳醇な芳香。ネル地の袋に入れられた珈琲の粉は細く注がれた熱湯に膨潤し、むせかえるほどの芳香を放ちながら黒々とした液体を滴らす。白板に貼られた昨日の実験記録が示している一昨日までの仮説の矛盾の悩ましさと、少々の睡眠不足による気怠さ…。しかし一杯の珈琲に覚醒し立ち上がる。「さて、今日の実験は？」

昼 昨日の実験記録を検証する今日の実験の準備が整った頃、各々が弁当を持って集う。再び立ち込める珈琲の芳香。その芳香の中、新しい仮説に基づいた研究の構想に思いを廻らせ、ひとしきりの討論の後、再び各々の実験台へと散ってゆく…。昼一杯の珈琲は食後の眠気を払い、実験の手を誤らせないように作用する。



コーヒーが廻り研究が廻る —— 研究室の黒い血液…

イスラーム神秘主義の僧侶に始まるコーヒーの起源伝説から、ロンドンのコーヒーハウスで醸成された市民社会、プランテーションの奴隷労働からフランス革命へと結晶するカフェ文化…。この本では、世界史のいたるところにその時代のエッセンスのように存在するコーヒーという世界商品を通して、世界史の様々な事例が紹介されます。この本を読んでいると、フランス革命も近代市民社会も、まるでコーヒーによってもたらされたかのように思われてきます。この本は、著者があとがきで書いているように、必ずしも著者の恣意ではなかったにしろ、コーヒーの歴史から寄せ集めた事実の集積が寓話的な物語となって、世界史のある一面を浮き立たせることで、読者を興味深く奥の深い歴史の世界に誘います。私の研究室では、前述の描写のとおり、毎日、主に朝と昼、お気に入りの自家焙煎珈琲豆販売所から購入してきたコーヒー豆を手挽きし、ネルドリップで抽出しています。私たちの一日の研究の活力を生み出す原動力の一つであるコーヒーが、世界史の中でも同じような原動力として作用している——と考えると実に愉快…。コーヒーだけに爽快です。

ただ、実際に世界史学ぼうとする際には多くの切り口があり、この本の場合は、主人公として常にコーヒーを前面に出した世界史のほんの一面にすぎない——ということを忘れてはいけません。もしもこの本を読もうと思われたなら、是非この点にはご注意ください。まずコーヒーを一杯飲んで、すっきりと覚醒してから読むことです！

(写真撮影：環境物質科学専攻院生N)

# 留学体験記

International Student Report

海外留学した学生に、留学先での経験した出来事や学んだことを語っていただきました。



● 名前 **いえき せな 家喜 世奈 さん** ● 所属 国際関係学部 3年  
● 留学先 **ニューキャッスル大学** ● 留学期間 2011年8月～2011年9月

## Q1.留学をしようと思ったきっかけは？

海外留学にはもともと興味があり、行くなら就活や卒論の心配をしなくても良い3年生の夏休みがチャンスだと思っていました。イギリスには高校生の時に一度行ったことがあったのですが、その時に街なみがすごく綺麗で感動したこと、大学生になったことによって同じ国でも新たな経験が出来ると思い、ニューキャッスル大学での短期留学の参加を決めました。

## Q2..留学先でどんなことを学んだ？

午前中のクラス別授業では、ペアワークやグループワークを通してspeakingやlistening, grammarなどの勉強をしました。週に3回は午後からも選択授業があり、私の選択したBusiness Englishでは一人ひとりが商品のプレゼンを行ったり、履歴書の書き方を学んだりしました。またBritish Cultureでは、近くの博物館や美術館に行ったり、街の人にアンケートをとったりして、イギリスの文化について詳しく知る事が出来たと思います。

## Q3.留学中の印象的なエピソードは？

ニューキャッスル空港でスーツケースが届かなかったことです。到着早々のハプニングだったので、とても不安な気持ちになったことを覚えています。でも今思い返すと、これも良い勉強の機会になったので良かったと思います。楽しかったことは、休日の週末トリップ。マンチェスターや湖水地方など色々な場所に連れて行ってもらえたので、ニューキャッスルでは出来ない経験や新たな発見もあり楽しかったです。

## Q4.これからの目標、留学での経験をこう活かしたい！

今回の留学ではイギリス人だけでなく、クラスや寮で台湾やドイツの人々とも接する機会があったので、様々な文化や考え方を知ることができ、自分の視野がすごく広がりました。それと同時に、自分はまだまだ勉強不足だなと感じることも多くあり、英語の勉強はもちろんのこと、自国の事についてももっとしっかりと知っておくべきだと痛感しました。現在の目標は、次にまたこのような機会があった時に、自分の言いたいことをもっとスムーズに伝えられるようになり、より多くの人とコミュニケーションをとる事。そのためにも、今回の留学経験を勉学へのモチベーションとして、今後の学生生活に活かしていこうと思います。



クラスメイトと教室で



湖水地方の山頂で



ニューキャッスルの観光スポット "Angel of the North" で

### 短期交換留学について

海外交流協定校への派遣学生募集を行っています。派遣学生の資格及び条件等については公式サイト、派遣学生の募集は「Web学生支援サービシステム」(本学在籍者閲覧可)にて掲示します。

お問い合わせ: 企画調整室 国際交流担当  
電話 054-264-5103

### その他 留学について 語学研修について

夏や春の長期休暇を利用して、英語や中国語を学びます。語学の勉強だけでなく貴重な海外体験ができます。

\*留学に関する情報は、学生室および学生室前ロビーにも配架しています。ご不明なことは、学生室(留学担当)までご相談ください。

お問い合わせ: 学生室 留学担当  
電話 054-264-5009

# 活躍する卒業生

## 01 | 森田 美保さん

食品栄養科学部栄養学科 2007年3月卒業  
(大学院生活健康科学研究科食品栄養科学専攻 2009年3月修了)  
三重県厚生連 鈴鹿中央総合病院

### Q1.どんなお仕事をされていますか？

A. 私は現在鈴鹿中央総合病院で管理栄養士として勤務しています。主な仕事は献立作成などの給食管理、入院患者様や外来患者様の栄養指導、入院患者様の栄養管理などです。栄養指導では、わかりやすく説明することを心がけており、患者様に「聞いてよかった、わかった」と言われた時や、患者様の検査数値が改善した時などは、患者様と共に喜びを感じます。また、入院患者様の栄養管理では、日々いろいろな問題・困難もありますが、多職種(医師、看護師、薬剤師など)と連携して問題解決に当たっています。

### Q2.大学生活で印象に残っていることはなんですか？

A. 私は大学4年の研究室配属から大学院修士課程までの3年間を同じ臨床栄養学研究室で過ごしました。そこでの経験や勉強は、私の基礎的な考える力を養ってくれたと思います。日々いろいろな問題に直面することがありますが、順序立てて、一つ一つ原因を探っていくことなど、研究生活で培った能力が生かされていると思います。

### Q3.静岡県立大学に入学してよかったと思うことはありますか？

A. 卒業後3年経った現在でも、お世話になった先生方や、同級生、先輩や後輩に相談をしたり、情報交換をしたり連絡を取り合うことが多いです。それほど、濃い大学生活であったと思いますし、私に強い影響を与えてくれた大学生活であったと思います。

### Q4.今後の目標について教えてください。

A. 就職して3年経ち、徐々に仕事には慣れてきましたが、一方まだまだわからないことも多く、勉強しなければと思う日々です。「あの時はあおしてれば…」と思い返すことも多いですが、今後はもっと勉強して、自信を持って業務に当たれるように研鑽したいと思います。

### Q5.在学生にひとこと、メッセージをお願いします。

A. 大学生の時にしかできない経験をなるべくたくさんしてください。研究・旅行・部活・サークルなんでも良いと思います。自分でやり切ったと思えることが大切だと思います。



オープンキャンパス、卒業生の講演の写真



職場で韓国へ

## 02 | 加藤 雄也さん

大学院生活健康科学研究科環境物質科学専攻  
2008年 3月修了  
株式会社 竹中工務店

### Q1.どんなお仕事をされていますか？

A. 建設会社に勤務しています。建物には様々な使用目的のものがありますが、私は主に工場、研究所といった、製造や研究・開発を目的とする施設を担当する部署に所属しています。建築主が施設に求めるスペックや抱える課題を整理・抽出し、それを満足するための技術提案・設計を行いながら、最終的に安全で生産性の高い施設を提供できるようにコーディネートすることが大きな役割です。

### Q2.大学生生活で印象に残っていることはなんですか？

A. 研究室に入った当初、ゼミ等で議論されている内容が、知識不足からほとんど理解できず挫折しかけたことが印象に残っています。これと同じ経験を建築業界に飛び込んだ社会人1年目に再度経験しました。社内で飛び交う建築の専門用語や業界独特の言い回しは、まるで外国語のように理解できずでしたが、研究室で経験したことを思い出し、「習うより慣れろ」と少し余裕をもって考えることができました。

### Q3.静岡県立大学に入学してよかったと思うことはありますか？

A. 多種多様な人達と出会うことができたことです。大学院環境物質科学専攻は、学部をもたない独立専攻のため、私を含め所属学生のほとんどが他大学から入学してきた人達でした。年齢、国籍、学んできた専攻分野等々様々で、大学までとは違った価値観や世界に触れることができました。

### Q4.今後の目標について教えてください。

A. 現在、入社4年目を終わろうとしています。一人前のエンジニアとなるためには、まだまだ学ばなければならぬことがたくさんあります。特に建築、関連法規、各種設備のスペック選定についての知識が不足しているので、課題として勉強している最中です。最終的には、プロジェクト全体をマネジメントする力を持ったエンジニアを目指したいと考えています。

### Q5.在学生にひとこと、メッセージをお願いします。

A. 大学は勉強や研究に没頭するのに最高の環境ですので、短い期間ですが楽しんでください。また、様々な経験や知識を得ながら、自分を良く見つけ直して下さい。人と違うところが今後自分の武器やカラーになっていくと思います。



**3/10(土)** 創立25周年記念事業 **アジアにおける循環型の看護人材育成を目指して**

●時 間：13時00分～16時15分 ●対 象：医療関係者、教職員、学生、市民の方(参加無料※)  
●会 場：国際関係学部1階 3108教室 ※懇親会のみ有料(参加費2,000円要申込)

**3/17(土)** **第13回静岡ライフサイエンスシンポジウム**

●時 間：9時30分～16時30分(シンポジウム・ポスター発表) 17時30分～19時00分(交流会)  
●会 場：看護学部棟4階  
●対 象：高校生、大学生、大学院生、教員、および一般の方(事前予約不要・参加無料)

**3/18(日)** 創立25周年記念事業 **ムセイオン静岡サイエンスウォーキング**

●時 間：9時30分～ ●対 象：教職員、学生、一般の方  
●会 場：本学入口 ロータリー集合(事前予約不要)

**3/20(火祝)** **平成23年度 学位記授与式**

●時 間：10時00分～12時00分(開場 9時10分)  
●会 場：グランシップ 大ホール・海(静岡市駿河区池田79-4 JR東静岡駅南口徒歩3分)

こんなの欲しかった!!

# 県大ライフをサポート!

**論文・資料!なんでも**

**コピー** **8円**から!

高速機だから短時間で大量コピー!  
ボリュームディスカウントも!

**いつでもお荷物を受け取れます!!**

**私書箱** **840円**から!

※1  
お客様のお荷物(宅配便など)を店頭でお預かりします!  
一人暮らしの方、日中お荷物を受け取れない方に最適!  
※1 別途料金が必要となります。

**卒論も同人誌も1冊～**

**製本** **157円**から!

卒業論文、サークル内での出版物など  
1冊から製本出来ます!

**就活の必須アイテム!**

**名刺** **630円**から!

就職活動の必須アイテムの名刺。  
50枚から手軽に作成できます!

**研究発表や学祭に!**

**ポスター出力** **805円**から!

ポスターの他、研究発表の資料も  
高精密大判出力機で読み易く!

私書箱 コピー 名刺  
ポスター出力 製本各種

**MBE静岡草薙店**  
〒424-0886 静岡市清水区草薙1-14-11  
☎054-344-1010 MBE草薙 検索  
[www.mbe.co.jp](http://www.mbe.co.jp)

MAIL BOXES ETC.®

広報誌はばたきに広告を掲載する事業者を募集しています。

学内への配布の他、在学生の保護者の方などに送付しています。詳しくは下記問い合わせ先まで。

- 発行日/2012年3月1日
- 発行/静岡県立大学 広報委員会
- お問い合わせ先/広報室
- TEL/054-264-5130 FAX:054-264-5099
- E-mail/koho@u-shizuoka-ken.ac.jp
- 〒422-8526 静岡市駿河区谷田52番1号
- http://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/